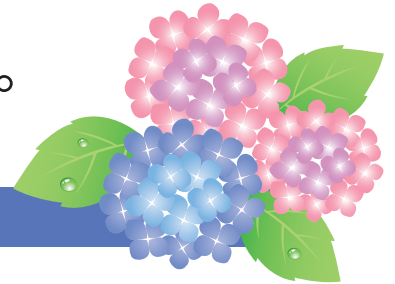


薄暑のみぎり、皆様にはいよいよ ご清栄のこととお慶び申し上げます。



心臓内血栓症

暖くなると夏にかけて増えてくるのが血栓性の疾患です。

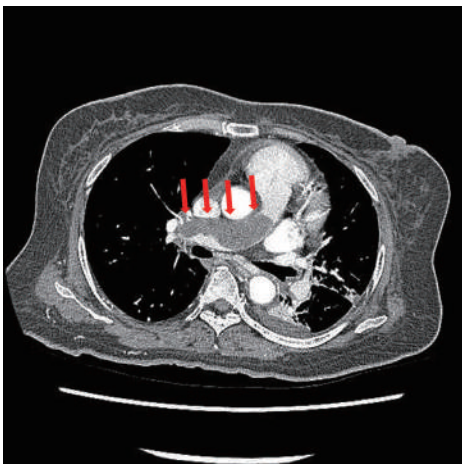
気温の上昇による発汗、食欲低下による脱水、旅行のための長時間座位保持などにより血液の濃度が上昇して流動性も低下し、血の塊（血栓）を形成します。これにより血管が血栓で詰まってしまい、各臓器に血液が供給されなくなること（虚血）で様々な障害が出てまいります。

動脈血栓症で比較的多いのが下肢の虚血で、当科でも多くの患者様の下肢虚血を治療させていただいております。心臓内に血栓ができることもあり、脳に運ばれて脳梗塞（心原性脳梗塞）を引き起こすこともあります。静脈血栓症ではいわゆるエコノミークラス症候群といわれる肺動脈塞栓があります。肺に行く血管に血栓や腫瘍などの物質が詰まることで肺に血液が供給されなくなる病気です。肺に血液が供給されなければ呼吸をしても酸素を取り入れることができず、また、血液の流れも妨げられるため、心臓にも大きな負担となります。巨大な血栓が血管や心臓に詰まる場合は急性の転機を取り、生命維持が困難となることも珍しくありません。小さい血栓であれば血栓を溶かす薬などの使用で軽快することもあります。大きな血栓が詰まっているような場合は外科的に除去することが勧められます。疾患としての頻度はそれほど多いものではありませんが、当科におきましては着任以来搬送件数も多く積極的に手術治療を行い、豊富な経験を持っておりますので一部をご紹介させていただきます。



心臓血管外科 部長 小林豊

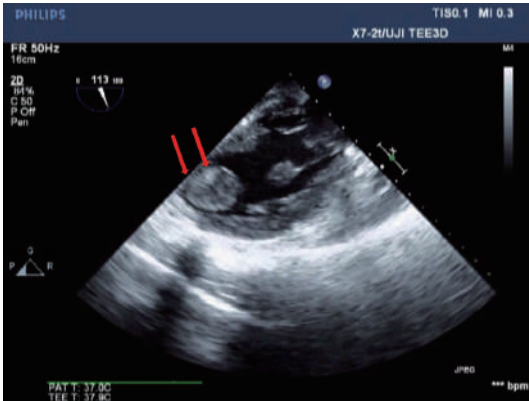
症例 -1



62 歳女性、前医で肺動脈塞栓の診断。

血栓溶解療法、カテーテル治療を施行して救命しえたものの、その後再度状態悪化しショック状態となったため手術目的に当科紹介。当院医師同乗の救急車でお迎え搬送し、緊急手術となった。肺動脈内に大量の巨大血栓が存在しており、一部は慢性化器質化して内膜と強固に固着していた。丁寧に剥離して内膜と一塊にして除去。その他の心腔は確認したが、血栓は認めず。手術時間は 2 時間 30 分、手術翌日に人工呼吸器を離脱して術後 14 日で退院となった。

症例 2



53 歳女性、脳梗塞症状で当院救急搬送。

心エコーで連合弁膜症と左心室内血栓を指摘された。ショック状態であったため緊急手術となった。当初の画像診断では血栓は左心室内のみであったが術中に直視下で確認すると、すべての心腔内および肺動脈に血栓を認めた。硬性内視鏡を用いて心臓内腔を観察すると、肉柱内に存在する血栓が多数確認された。

すべての血栓を内視鏡を利用して除去し僧帽弁、三尖弁にそれぞれ弁形成術を施行して手術を終了した。手術時間は 4 時間 30 分、術後 5 時間で人工呼吸器を離脱して術後 12 日で退院となった。

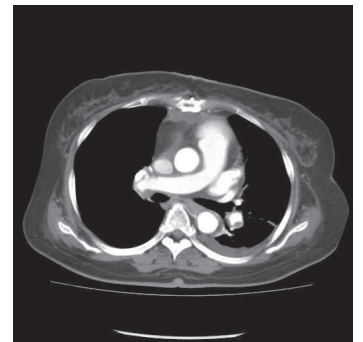
高度な専門技術、患者様の状態や病態に応じた最善の治療方法を。

従来の肺動脈塞栓除去術は超低体温や心停止・循環停止を必要とし、手術も長時間に及んでいたため体への負担は大きく、術後も長期に及ぶ人工呼吸器のサポートが必要でありました。現在当科では高度な専門技術を持つ心臓麻酔医や人工心肺技士とのチームで手術を行うことにより、常温体外循環で心臓を動かしたまま血栓を除去する治療が可能であり、手術時間も 2 時間台、術後も早期に人工呼吸器を離脱しております。

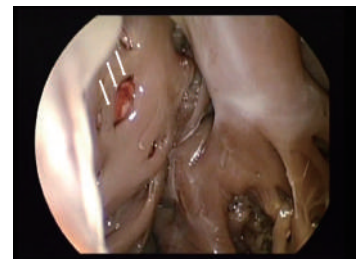
一般的にこの手術の死亡率は 40%とも言われておりましたが、この方法により救命率も大幅に改善し当科では手術死亡は認めておりません。入院期間も 2 週間程度で、退院後の早期社会復帰が可能となっております。肺動脈末梢分枝の血栓は手術で取りきることが難しいため、血栓溶解療法やカテーテルでの治療が適していると考えられます。しかし左右の主肺動脈内に血栓が進展する場合は、器質化した慢性血栓と新鮮血栓が混在していることが多く、手術により血栓と共に血管内膜を確実に除去することにより再血栓形成を抑制するとともに肺高血圧の残存を減じることができます。

心臓内に血栓を形成する場合は提示した症例のように画像診断で確認されない肉柱内血栓や筋層内血腫などが確認されることが多く、再発のリスクも高いといわれており、開心直視下に確認することが確実な治療に結びつくと考えられます。

また、血栓の背景に弁膜症や不整脈を有していることが多く、根本的な原因治療を必要とする場合もあります。ごく稀ではありますが心臓内血栓疑いで手術を施行し心臓腫瘍が心臓外腫瘍塞栓や肺動脈原発腫瘍、心臓原発腫瘍であったということも経験しております。心臓腫瘍は術前生検などの検査が不可能であるため、手術が診断兼治療となります。



▲症例 1 術後



▲症例 2 肉柱内血栓

患者様の状態や病態に応じた最善の治療方法を選択することが重要であり、治療方針の選択肢の一つとしていただければ幸いです。紹介の有無にかかわらず、お気軽にご相談いただければと思います。

状態が切迫して他院で人工呼吸器や人工心肺（PCPS）が導入された患者様も当院医師同乗で救急車にて搬送可能であるため、どのような状態でもまずはご連絡いただければ迅速に対応させていただきます。